

## 「下井草駅周辺地区まちづくり協議会」が 区長に「まちづくり構想」を提案しました！

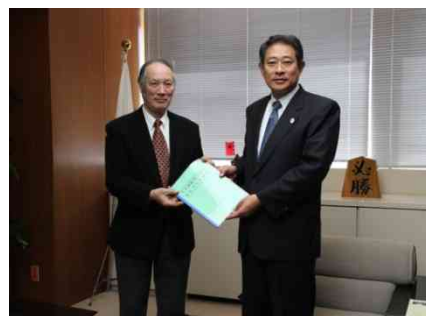
24日(月)、下井草駅周辺地区まちづくり協議会(会長:矢島謙一、会員35名)が杉並区役所を訪問し、平成23年から、西武新宿線の連続立体交差事業を見据え検討を重ねてきた下井草駅周辺地区(約100ha)における「まちづくり構想」を、田中良(たなか・りょう)区長に提案しました。今後、区は、基礎調査の実施や庁内の検討を重ね、当該地区の「まちづくり方針」を策定し、まちづくりを推進していきます。

下井草駅周辺地区は、みどりやオープンスペースが多く、昭和初期の区画整理により良好な街区基盤が形成されています。一方で、踏切での交通渋滞や旧早稲田通りの歩道幅員が狭く、段差もあることから、ベビーカーや車椅子はもちろん、一般の歩行者が通行するにも安全面での課題があります。さらに平成20年には、東京都が西武新宿線の「野方駅～井荻駅付近」「井荻駅～東伏見駅付近」を、鉄道立体化の事業候補区間に位置付けました。こうした背景を踏まえ、地域住民で下井草駅周辺の住宅地を含めたまちづくりを検討しようと、平成23年9月に「下井草駅周辺地区まちづくり協議会」が発足しました。

本日、同協議会は、約2年半にわたり検討を重ね、まとめあげた最終的な「まちづくり構想」を区長に提案しました。

構想では、西武新宿線の連続立体交差事業の促進、電柱の地中化等による旧早稲田通りの安全確保、駅前広場の整備やまちのシンボルツリーとなっている桜の木の保存など、商店街を含めた駅周辺の活性化が主な提案内容になっています。

協議会の提案を受けた田中良区長は、「まちづくりで一番大事なのは住民の合意です。しっかりと受け止めて、取り組んでいきます」と話していました。



今後、区は、まちづくり協議会から提案された「まちづくり構想」の趣旨を参考に、基礎調査を行い、庁内での検討を重ね、さらに地域の皆様の意見を聞いたうえで、下井草駅周辺地区の「まちづくり方針」を策定していきます。併せて、西武鉄道や東京都、隣接自治体と連携しながら、連続立体交差事業の早期実現に向けた取り組みを進めていきます。

### 【問い合わせ先】

都市整備部都市計画課鉄道立体担当、総務部広報課

電話：3312-2111(代表)